

至 自
年 年
月 月
日 日

満州国蘇聯邦外交関係雑纂

卷

記 外務省
録 省

至 自
年 年
月 月
日 日

満州国蘇聯邦外交関係雑纂

第

A
2
2
0
MA/R/L

REEL No. A-0341

0411

アジア歴史資料センター

公機密第三二五號

昭和十三年三月十一日

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉

外務大臣 廣田 弘毅 殿

被逮捕ソ聯人「ニコリスキー」ニ對スル差入及
面會等ニ關スル件

本件ニ關スル三月五日附外務局長官宛駐哈特派員發報告寫御參考迄
別添送付ス

本信寫送付先 哈爾賓

外務省

（日本標準規格B5）

001

祕第二〇七號

康德五年三月五日

駐哈爾賓外務局特派員

下村 信貞

外務局長官

神吉 正一 殿

被逮捕ソ聯人ニコリスキーニ對スル差入及
面會等ニ關スル件

三月三日ソ聯副領事ゴルブツオフ上野事務官ヲ來訪シ本件ニ關シ再
ヒ同人ノ健康狀態ヲ云爲シ病人向キノ滋養食差入及同人妻ノ本人乃
至係リ醫師トノ容態確メノ爲ノ面會許可方要請越シ尙在獄中適度ノ
入浴許容方併セテ申出スル處アリタリ當方ハ同人ノ健康ニ付テハ當
局ニ於テ可然配慮セラルヘキカスノ種在獄中ノ犯罪人ニ對スル外部
ヨリノ差入及面會ハ許可セラレサル旨答ヘタル處ゴハ然ラハ妻ノ係

外務省

（日本標準規格B5）

002

リ醫師トノ面會ハ差支ヘ無カルヘシトソノ許可斡旋方頻リニ要請セ
ルニ付當方ハ一應關係機關ニ照會スヘキ旨答ヘ置ケル趣ナリ
右ノ如クソ側カ同人ノ身上ニ多大ノ關心ヲ拂ヒ執拗ニ特別取計方ノ
要請ヲ固執シ居ルハ同人カソ側ニ取り重要人物ナルヲ物語ルモノト
モ看做サルル處第四軍管區軍法處ヨリノ回報（寫別添）ニ基キ今後
共敘上ノ如キソ側申出ハ之ヲ拒否スルコトト致度意向ナルニ付此段
報告旁々申添フ
本信寫送付先 第四軍管區軍法處（別紙省略）

（日本標準規格B5）

003

四軍法發第三三號

被逮捕ソ聯人ニコリスキーニ對スル差入ニ關
スル件回答

康德五年二月九日第四軍管區軍法處長 蘇 潤

駐哈爾賓外務局特派員 下村 信貞殿

康德五年二月八日附哈外祕第四八號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件ニ
付テハ同人ニ對スル被疑事件目下審議中ニシテ同人ト他人トノ接見
及書類物品ノ接受禁止中ノモノ有之候ニ付右御諒承相成度回答候也

（日本標準規格B5）

004

公機密第五八二號

昭和十三年五月六日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅殿

滿側官憲カ「ソ」聯中學校ヲ搜索セリトテ
「ソ」側抗議越ノ件

本件ニ關スル五月一日附外務局長官宛駐哈特派員發電報寫御參考迄
別添送付ス

本信寫送付先 哈爾賓、滿洲里

(日本標準規格B5)

005

外務省

外政一祕合第四二六號

康德五年五月三日

駐滿

日本大使館參事官 加藤外松殿

外務局長官 蔡運升

滿側官憲カ「ソ」聯中學校ヲ搜索セリトテ
「ソ」側抗議越ノ件

首題ノ件ニ關スル五月一日附駐哈特派員發電報寫何等御參考迄別添
送付ス

本信送付先

總務長官、治安部警務司長、日本大使館參事官
民生部次長、關東憲兵隊司令官、關東軍第二課長
同第四課長

(日本標準規格B5)

006

外務省

康徳五年五月一日附長官宛駐哈爾賓特派員發電報寫
五月一日「クズネツオフ」聯總領事代理ハ慌シク當公署ニ下村特派
員ヲ來訪シ目下滿側官憲ハ「ソ」聯邦中學校舍内ノ搜索ヲ行ヒ而「
メーデー」ノ室内祝賀設備ヲ完全ニ破壊セルニ付即時斷乎タル有效
措置ヲ採ラレ度又此ノ滿側官憲ノ暴舉ニ對シ不取敢嚴重抗議スル旨
述ヘタルニ對シ當方ハ右行爲カ事實ナリトスレハ恐ラク當局ハ何等
カノ根據ヲ有シ行動セルモノト思料セラルト應シタル處「ク」ハ「
ソ」側ハ從來モ極メテ慎重ニ行爲シ居リ斯ル暴舉ヲ受クル理由絶對
ニ存セサルヲ確信スト述ヘ本官ハ一應實情調査スヘシト應シ置キタ
リ

(日本標準規格B5)

007

外務省

公機密第六〇六號

昭和十三年五月十日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅殿

滿側官憲ノ「ソ」聯中學校搜索竝ニ查證
問題ニ關スル件

本件ニ關スル五月五日附外務局長官宛駐哈特派員發電報寫御參考迄
別添送付ス

(日本標準規格B5)

008

外務省

康徳五年五月五日附長官宛哈特派員發電報寫

五月四日上野事務官ハ「ゴルブツオ」聯副領事ヲ領事館ニ往訪シ數日來督促シ來レル吉田主事ノ查證即時發給方要求セルトコロ「ゴルブツオ」ハ中央ヨリ回答ナク又其發給時期不明ナリト述ヘタルヲ以テ上野事務官ハ先日ノ下村特派員ト「グズネツオ」總領事代理トノ申合ヲ楯ニ大イニ「ソ」側ノ違約ヲ責メタルトコロ「ゴ」ハ滿側官憲ノ「ソ」聯邦中學校搜索ノ件ヲ持出シ「メーデー」當日中學校内祝賀會場ニ多數ノ武裝者ノ襲撃ヲ受ケ滿側官憲ノ許可セル同會場ヨリ「レーニン」、「スターリン」、「ゴーリキー」ノ肖像ヲ何等調書ヲ作製セスシテ搬出シ其ノ他祝賀用裝飾ヲ破壊シタル上校長ヲ一室ニ監禁シ來會者ヲ脅怖セシムル等ノ亂暴狼籍アリタル以上查證問題ノ解決ハ全然不可能ナルノミナラス今後ノ事態ハ一層惡化スヘシト激昂シテ述ヘ立テタルニ對シ當方ハ查證問題ヲ「ソ」聯

外務省

(日本標準規格B5)

010

中學校ノ件ト切り離シ「ソ」側ノ查證發給違約ヲ更ニ難詰スルト共ニ學校ノ件ハ教育監督當局カ正當ノ權限ニヨリ唯單ニ校内ノ査閲ヲ行ヒタルニ過キスシテ其ノ結果偶々學校側ニ於テ各種違法行為ノ確證發見セラレタル模様ニテ目下尙調査取調中ナルモ非ハ當然學校側ニ在ル事明カニシテ「ソ」側ノ抗議ハ何等ノ根據ヲ有セスト應酬シタルカ「ゴ」ハ右莫斯科ニ報告ス可シト答ヘ尙モ執拗ニ學校襲撃云云竝ニ抗議ヲ繰返シ居リタルカ當方又之ニ對シ反駁シ遂ニ喧嘩別レトナリタルカ以上ヨリシテ「ソ」側ハ學校問題ニ對シ極メテ重要視シ居ルト共ニ滿側ノ本問題ニ對スル處置振ニ付深甚ナル關心ヲ持シ居リ本問題ノ圓滿解決ヲ見サル以上查證問題ハ斷シテ解決セサル意嚮ニ非ラスヤト思料セラル

外務省

(日本標準規格B5)

秘

昭和13 二五九五四

哈爾濱

九月四日

前發

四日

前着

歐、亞

宰領外務大臣

第一八四號

本官發滿洲電報

第一八三號

本三日當地駐滿總領事代理「ゴルブツオフ」ハ下村外務局特派員ヲ
訪問シ(一)滿洲國官憲カ最近滿洲里ニ於テ「モ」鐵從業員ノ身體検査
ヲ行ヒタルコト(二)滿洲里居住ノ「モ」鐵從業員ニ對シ白系輸入(一
多分滿洲國國境ノコトナラン)カ家宅搜索等ヲ行ヒ是等從業員ヲ壓
迫シ居ルコト(三)八月二十五日滿洲國國力得體ノ知レサル人物ヲ察知

電信寫

入ト稱シ未タ入聲手續ヲ済マシ居ラサルニ拘ラス滿洲里ニ於テ強制
的ニ「モ」鐵ニ乗車セシメ領内ニ送込メルカ之カ爲國際列車ハ約三
十分發車ヲ遲延スルノ已ムナキニ至レルコト(一)滿洲國側ハ本人ノ滿
洲國內居住ヲ好マシカラストシ且ツ常人カ歸國ヲ欲シ居レルヲ幸ト
シ蘇聯人ナリトノ主張ノ下ニ強制的ニ蘇聯ヘ追放セル事件ヲ指ス(一
ヲ指摘シ以上ノ)如キ「アブノーマル」ノ狀態ニテハ「モ」鐵ノ圓
滿ナル運行ヲ期シ得サルニ付右ヲ「ノーマル」ノ狀態ニ復シ且ツ今
後此ノ種事件ヲ繰返スコトナシトノ保障ヲ與ヘラレサル限り「モ」
鐵ノ滿洲里引入レ(國際)列車ノ滿洲里ニ於ケル遮斷ヲ意味スルモ
ノナリヤトノ下村ノ質問ニ對シ「ゴ」ハ之ヲ肯定セリ(一)ヲ中止スル
ノ外ナシ右ハ莫斯科政府ヨリノ訓令ニ基クモノニシテ本件ニ關シ滿
洲國ノ回答ヲ求ムル旨申入レタル趣ナリ

大臣、蘇、滿洲里へ轉電セリ

011

013

電信案

外務省

瑞洲國ノ手ノ之ノ自系露人ノ直接関係
 已居ハ満洲ノ在満ノ領事及在留民ニ付ス
 所泊ハ最近益加重シ特ニ哈爾濱ニ於テ著シ
 ノ最早陰忍シ難キ状態ニ在リ若シ近キ将来
 ニ事然ハ改善ヤリサレハソノ側ニ在満自國領事
 官ノ存続ニ付考慮ヲ加ヘサント得サト共ニ若人
 テ在リシ満洲國領事官ノ運命ニ直接影響
 及スルハトナシタリ之ハ独リ満洲ノ問題トシ

012

電信課長

主 任 第一課長

昭和十三年九月五日 起草

電送第23525 23526

九月五日

在満洲大使
 在リ重方大使

在満洲大使
 在リ重方大使

宇垣大使

九月五日ハハルビンニ代理大使増田次官ヲ来訪シ
 政ヲ付ヨリ重方大使(ヤリヨリスノエ)訓令ニ接シタル付
 特ニ貴次官ニ直接申入ルキ次第ナリト前掲シ

九月五日ハハルビンニ代理大使増田次官ヲ来訪シ
 政ヲ付ヨリ重方大使(ヤリヨリスノエ)訓令ニ接シタル付
 特ニ貴次官ニ直接申入ルキ次第ナリト前掲シ

九月五日ハハルビンニ代理大使増田次官ヲ来訪シ
 政ヲ付ヨリ重方大使(ヤリヨリスノエ)訓令ニ接シタル付
 特ニ貴次官ニ直接申入ルキ次第ナリト前掲シ

(原議用紙乙)

マラスの事ニモ関係は次第ナシ、斯種満洲ノ圧迫
行為停止方ニ付、事柄所有者ノ注意ヲ喚起セ
サレテ得スト述ヘ、^{リ右ニ対シ}次官ハ滿洲國ノ問題
ナシ直接同國ト交渉^{セラル}（キ）協合ナリ、実情承認
セサニモ恐ラク在リ、滿洲國領事館ハ滿人ニ対スル
側ノ取扱^{ニ極メシ}不滿、^{ニ極メシ}ナリ、^{ニ極メシ}在リ、^{ニ極メシ}中ナシ、^{ニ極メシ}官憲
領事館領事館問題カ交渉中ナシ、^{ニ極メシ}官憲

電信案

外務省

(原議用紙乙)

強制的ハ哈爾濱武市ニ於テ領事館員ノ退去
ヲ敢^ニ行ヒ、^ニ而テモ其降有ラズ、^ニ不^ニ便
ヲ與ヘ、^ニ事實ニ徴スルモ容易ニ想像ニ得ル
ハ、^ニ側^ニハ本日ノ申入ヲ為スニ先立チ在リ、^ニ滿
洲國領事館ハ滿人ノ取扱ニ付考慮ス（キ）ナリ
又、^ニ側^ニハ本日ノ申入ハ、^ニ側^ニハ在リ、^ニ滿洲國領
事館ニ圧迫ヲ加^ニシ、^ニ魂膽ヲ有スルカ如ク御意ナリ

電信案

外務省

(分類)		電信課長		發電係		昭和十二年九月八日起草	
管主		電送第		23803		號	
昭利		年		月		日	
時		分		秒		發	
宛		件		名		發	
在滿		在滿		ニ付之所謂		宇垣大員	
植田大使		ニ付之所謂		ニ付之所謂		宇垣大員	
任主		第		九		號	
電台第二七五九號		名件錄記		名件錄記		名件錄記	
電信總局		外務省		外務省		外務省	

電 信 案

外 務 省

甚々不愉快ナリ
而角力ナリト側ノ斯クノ如キ勸復の言辭ハ満
シ
ト關係ヲ良好ナラシムル所以ニ非スル酬
謝ナリ
本電々報乞
新京蒙斯料

(原議用紙乙)

秘

昭和13 二六四九六 贈 本官發滿宛電報 九月九日夜宿 呈、呈

字垣外務大臣

第一八七號

本官發滿宛電報

第一八五號

大臣發閣下宛電報合第二七五九號ニ關シ

「スメターニン」代理大使ハ堀内次官ニ「滿洲ノ在滿總領事館及在留民ニ對スル壓迫ハ特ニ哈爾濱ニ於テ著シ」云々ト述ヘ居ル。此等備ノ總領事館及在留民ニ對スル取扱ハ付テハ景家ノ報告ニ依リ御承知ノ通りナルカ。餘屬側ノ所屬總領事館ナルモノハ其ノ具體的舉動ハ

電信寫

少々前モ之ヲ壓迫ト見ルヲ得サル性質ノモノニシテ「滿洲ノ壓迫ハ最近益々加重セラレ、最早總領事館ニ對シテ「一トノ言分ハ滿洲ニ大規模ニシテ冷靜ヲ欲キ居ルヤ」ニ思考セラル。現ニ九月三日當地ハ總領事代理ハ下村特派員ヲ訪問シ目下白系匪人ノ徒黨方總領事館、病院、學校等ノ疎離機關ヲ襲撃スルノ計畫ヲ持テツツアリトノ風説ニ基キ之カ防止方申出テタル趣ナルカ右ニテモ如何ニ總領事館方總領事館トナリ居ルカラ。總領事館ニ對シテハ要スルニ總領事館ハ疑心暗鬼ノ心理ニテ何等根據ナキ事件ヲ大規模ニ取扱ヒ居ルモノト思考セラル大臣、恐ヘ轉電セリ

018

秘

昭和13 二六四六八 暗

新京 九月九日後發
本省 九日後發

歐、亞

字垣外務大臣

植田大使

第六四〇號

哈爾濱來電第一八三號ニ關シ

滿洲里辦事處(脱)(六日着)御參考迄左ノ通り

蘇俄ノ所謂滿洲ノ「モ」鐵従業員壓迫ニ關シ調査セル結果先般
實施セラレタル戸口調査ノ際「モ」鐵事務員立會ノ下ニ従業員家族
ノ戸別訪問ヲ爲セルコト及新駐屯部隊到着ニ際シ青島線内ニ立入ル
「モ」鐵従業員一名ノ行動ヲ監視セルコトアルモ蘇俄側申出ノ如キ家
宅搜索或ハ身體検査等ノ事實絶對ナシ

電信寫

滿洲里ノ右申出ハ最近一般蘇俄邦人ニ對スル滿洲里ノ壓迫加重ニ
關聯シ之カ「モ」鐵従業員ニ迄波及スルヲ惧レタル情勢爲サレタル
モノナルカ又ハ「モ」鐵引込線ノ讓渡交渉再開ニ關シ滿洲里方面
ニ促セルモノニアラスヤト思料セラル
因ニ現在「モ」鐵ノ幹部級ハ殆ト歸國シ従業員總數ハ三十八名ニ減
少シ居リ技術的ニモ國際列車ノ運行ニ)甚タシキ支障アルモノノ如
ク滿洲里各方面ニ於テハ「モ」鐵引込ハ時日ノ問題ナリト看做シ居
レリ

蘇、哈爾濱、滿洲里へ轉電セリ

019

外
務
省

(原議用紙乙)

021

電
信
案

外務省

二
國
乙

哈爾濱 貴賓 電報 第一八三號 卅

暗
平路

第
九
十
四
號

—

電送第 23829 號	
昭和 14 年 9 月 9 日	前發 時 30 分發
名 件	宛
天竺鐵樹 園子件 滿洲軍引入中止	植在滿 田大使

名件録記

發
宇垣大佐

主 管
主 任
昭和十二年九月九日起章

電信課長

發電係

9

五

東亞局
第三課長

電送第 23829 號
昭和 年 月 日 前發 時 分發

	管主
--	----

22

任主

加

昭和十二年九月九日起章

020

秘

昭和3 二六七四四 暗

新京 九月十二日午後
本省 十二日夜着

駐、亞

字垣外務大臣

植田大使

第六四七號

貨電第九六四號ニ關シ（「モ」鐵ノ滿洲里引入中止ノ件）

哈爾濱來電第一三八號「モ」鐵ノ滿洲里乘入停止及貴電合第二七五
九號在滿洲里領事館ノ引揚ニ關スル餘備ノ警告の申出ハ一應相關聯
スル如クニテ採旨スレハ滿洲里交通ノ全面的停止ヲ意圖シ居ルヤニモ
見受ラルルモ往來第六四〇號及哈爾濱來電第一八五號情報ニ徴シ所
謂滿洲里通過ナルモノヲ餘備ノ疑心暗鬼ニ出ツル點多分ニ認メラルル
ニ鑑ミ前記餘備ノ申出ハ權ヲニ我哈府及武市領事館ノ閉鎖ヲ強行シ

電信寫

2/27

内心報復ナキヤヲ惧レ居ル折柄偶々前記往來「モ」鐵從業員ノ戸口
調査、哈爾濱來電餘備極端暴言（尤モ關係者ニ於テ流布ヤシメタ
リトノ點込アリ）等アリ勞張敢峰事件ニ於ケル我報復的態度ニ相當
氣負ヘル快報ナル出先ノ氣持カ餘備當局ニ強く反映シ其ノ結果所謂
滿洲里通過ノ増大スルナキヤヲ惧レ之カ牽制ニ資センカ爲ナサレタル
ニ過キサルニアラスヤト觀察シ居レリ今（日）迄ノ諸情報ヲ綜合シ
不取取尙右餘備申出ノ眞意ニ關スル單及外務局側ノ觀察モ略々同様
ナリ（了）

電信案	外務省	住ッソ聯人ニ付ス灰迄ヲ云々レテ苦情ヲ述ヘ斯 カル事態繼續スルニ於テハ例トシテハ在滿自國 領事館ノ存続問題ヲ考ヒ便ヤサルヲ得ストテ 事態改善上我方ノ斡旋ヲ要望セムヲ以テ係 官ハ例トシテ例ノ自方ノ事ハ棚トシテ滿側ノ事ヲ 責ムルハ不都合トシテ例ノ滿洲國領事館 員灰迫ノ具體的事實ハ枚舉ニ達アラス
-----	-----	--

(原議用紙乙)

024

東亞局 第三課長		26325	主 管	電信課長
暗 平	電 和	日 後	時 分	號
往電第一〇四九號ニ因リ		在滿 植田大使		
当地ニ於テ去一日在京ッソ大使館員係官 來訪ノ際滿洲國官憲ノ滿洲里ハ哈爾濱在		近衛大臣		
第 一〇五 二 號		發 件 名 件 錄 記		
外務省		昭和十三年十一月十一日起草		

023

電信寫

秘

和
15

三〇三〇九

三

本 新
省 京

十月十一

十	十
五	五
日	日
俊	俊
潜	俊

104

近衛外務大臣

祖出大使

第七二九號

貴電第一〇五二號末段ニ關シ、滿蘇間問題解決上ニ於ケル我方軫念ニ關スル件、

テ向右ノ外無河ノ湖縣間係争問題ハ領事館員及「クーリエ」ノ査證
問題ニシテ右ハ文字通り「デッドロック」ニ乘上ケ居ル狀態ナルカ
變方ニ苦痛アル事項故薩縣間ノミニテ何時歩寄リ可能ナルヘシトノ
コトナリ不取敢（了）

電
信
案

外
務
省

(原議用紙乙)

柳、
向
是
の
時
に
満
洲
國
境
を
こ
え
て
満
洲
に
入
る

ニテ解決スル事然改まる満ソ双方に於て

計以（キ）事（コ）ヲ摘（ト）ニシキルニ
起（ヒ）テ

孰予満り同諸同也ノ解法ニ幸ノ我方ヨリ

[illegible]

イ
学ヲ
飲
フ
サ
ル
ニ
キ
ニ
付
何
カ
ノ
義
ヲ
抽
出
ス
電
ア
ス

3.
i.

翰旋

025

026

秘

昭和13 三一二三三 附

新京 十月廿四日 附
本省 廿四日夜着

近衛外務大臣

植田大使

第七四七號

武市領事館ト外務局トノ電信聯絡ニ關スル同領事館發浦潮宛電報（莫斯科宛ニモ同様ノ電報アリ）ニ關シ

飲事館

領事館ヨリノ來電ハ全部到着シ居ルモ外務局發ノモノハ本月九日以後一通モ到達シ居ラス依テ發ニ外務局ヨリ當地電信局ヲシテ蘇俄電信局ニ照會セシメタル處接受配達濟ナル旨回答アリタルニ付（

電信寫

武市來電ニ依レハ「ゲ、ベ、ウ」配達ヲ妨害シ居ル模様ナリ）二十

二日外務局ヨリ領事館宛來電ハ全部接受シ居ル旨並ニ右蘇俄電信局

回答ノ次第ヲ通報スルト共ニ九日以後發電十一通ヲ日附順ニ列挙シ

右ニ付電信局ニ照會スル様平文ニテ電報セル趣ナリ

尙「チタ」ト外務局トノ聯絡ハ異狀ナキ趣ナリ

蘇へ轉電セリ

蘇ヨリ浦潮へ轉電アリタシ



東京局

歐亞局

公領機密第八四六號

昭和十三年十月二十七日

在 哈 爾 濱

總領事 鶴 見

憲

在 滿 洲 國

特命全權大使 植 田 謙 吉 殿

在蘇滿洲國領事館壓迫ニ關スル件

本件ニ關シ今般駐哈外務局特派員ヨリ十月二十五日附哈外合秘第四七

三號公信送付越セルニ付右寫何等御參考迄別添ノ通進達ス

本信寫送付先 外 務 大 臣

在 蘇 大 使

昭和三十二年二月 貳日接受

028

哈外合秘第四七三號
康德五年十月二十五日

駐哈爾濱外務局特派員
下 村 信 貞 團

大日本帝國駐哈總領事館

在ソ滿洲國領事館壓迫ニ關スル件

本件ニ關シ十月二十四日本官トソ聯總領事代理トノ會談要旨何等御參
考迄左記ノ通通報申進ス

029

十月二十四日本官ソ聯總領事代理ゴルブツオフヲ往訪シ先ツ十月十八日ソ聯官憲カ駐武市領事館大石副領事夫妻ヲバザールヨリ拘引シ前後九時間警察署ニ留置ノ上同日午後十時釋放シタル事件及武市領事館宛電報カ十月十一日以後武市ニ於テソノ配達ヲ差押ヘラレ居ル件ニ關シ強硬ニ抗議シソ側官憲ノ不法行爲ヲ糾彈シタル處ゴハ只中央ニ傳達スヘシトノミ繰返シタリ

次テ本官カ武市及赤塔ニ於ケルソ聯官憲ノ滿側領事館ニ對スル苛烈極マル暴狀ヲソ側ハ何故ニ即時停止セサルヤヲ種々難詰セルニ對シゴハ例ニ依リ右ハ滿側カ在滿洲國ソ聯領事館壓迫並ニ轉籍問題ニ絡ムソ聯居留民壓迫ヲ現實ニ中止シ今後ヲ保障セサルニ因ルモノナリト述ヘ當方カ更ニ領事館宛電報ノ不配達、副領事以下ノ領事館員ノ頻々タル逮捕、領事館電話ノ切斷、領事館ニ對スル薪炭及飲料水等ノ供給阻止等々ノ如キソ側ノ暴狀ヲ列舉シ果シテ滿側カ過去乃至現在ヲ通シ斯ル理不盡ナル手段ヲ採用セシコトアリヤト迫リタル處ゴハ滿側ノ壓迫特ニ

ソ聯居留民ニ對スル暴狀ハ依然トシテ續行セラレ居リト嘯キ在哈ソ聯中學校閉鎖、北鐵代償金及對ソ聯人北鐵年金ノ支拂停止並ニ過般ノ所謂ソ聯總領事館包圍事件等ニ言及シ兩國關係ノ惡化ハ滿側カソノ發端者ナリト述ヘ特ニソ聯居留民ニ對スル所謂轉籍強要云々ヲ繰返シ強調シテ取上ケタリ當方ハ過去ノ問題ハ夫々相當且充分ナル根據アリテ發生セルモノナルコト、又ソ聯人ノ轉籍云々ニ關シテハ在ソ滿洲國側居留民ヲ曾テソ聯官憲カ極東地方ヨリ追放セル歴史並ニ在滿洲國ソ聯居留民中時ニ違法行爲ヲ犯セル廉ニ因ル當然ノ處分ヲ受ケタル實例カソ側ニ依リ多分ニ歪曲誇張セラレ居ルコトニ留意サレ度ト一應反駁シタル上、滿側カ先般來前述ノ如キソ側ノ暴狀ニシテ即時停止セララルニ於テハ直チニ兩國領事館ノ地位其他ニ關シ個々具體的ニ嚴密ナル相互主義ニ基キ之ヲ解決シ更ニ相互ニ將來ヲ保障スヘキ旨ノ最モ簡單ニシテ具體的解決案ヲ提起シ居ルニモ不拘ソ側カ之ヲ容レス徒ニ堅白異同ノ辯ヲ弄スルハ直接ニハ滿側ニ報復手段ノ採用方ヲ強要スルモノナルト共ニ延イテハソ側ハ兩國關係ノ惡化ヲ內心望ムモノト認定ヲ強要ス

ルモノナリト述ヘゴハ本官ハ先日ノ會談ニ於テソ側ハ先ツ滿側カ在滿
洲國ソ聯領事館並ニソ聯居留民ニ對スル壓迫即チソ聯領事館ニ對スル
食料品ノ配給及ソ聯居留民特ニ館員ノタクシニ依ル市内交通妨害ソ
聯居留民ニ對スル全面的轉籍強要工作、自系警官ニ依ル領事館監視及
館員尾行訊問及ソ聯領事館並ニ一般ソ聯人ニ對スル出入國査證ノ發給
停止等ノ諸行爲ヲ即時停止シ且今後ノ完全ナル保障ヲ與フレハ然ル後
始メテ在ソ滿洲國領事館ニ對スル這般ノ報復手段ヲ中止スヘキカ右ニ
對スル滿側ヨリノ満足ナル回登ナキ限り在ソ滿洲國領事館ノ事態改善
ニ關スル如何ナル措置モ一切採リ得サル旨ノソ側不動ノ方針ト具体案
ヲ申入レ置ケルカソ側ノ意向ハ右ニ盡サレ居リ之ニ附加スヘキ何物モ
ナシト述ヘ又モヤ報復手段ニ於テハソ側ハ斷シテ滿側ニヒケヲ取ラサ
ルヘシト放言シ更ニ滿ソ關係ハ現在未曾有ノ重大危機ニ立ツモノナル
カスル事態ノ招來及今後ノ成行ニ關シテハ滿側カ凡テノ實ヲ負フヘキ
モノナリト聲明シ、當方ハソ側ニ如何ニ壓迫ノ專問家アリトモ赤塔及
武市ニ於ケル暴狀ハ極度ニ達シ居リコレ以上ノ壓迫手段ハ斷シテ無カ

032

ルヘク而シテ貴 官カ或ハ重大危機云々或ハ領事館ヲ引揚クヘシ云々
ト口癖ノ如ク云ハルルノハソ側カ内心兩國關係ノ惡化ヲ企圖シ居ルモ
ノト印象ヲ強クセシムルノミ斯ノ如キハ貴官ノ爲探ラサル處ナルカ尤
モ滿側ハ兩國關係ノ好轉ヲ冀劍ニ希望スルモソ側ノ挑戰ニ基ク如何ナ
ル危機モ何等恐ルルモノニ非ヌ又滿側ノ隱忍ニモ限度アルヲ此ノ際篤
ト留意サレ處且事態紛糾スルモノノ全責任ハソ側ニ在ル旨聲明スト述
ヘ最後ニ本日ノ會談ヲモスコニ報告シ右ニ對シ大至急回答セラルル
様求メ二時間ニ亘ル會談ヲ打切レリ

本信送付先

哈機、日領

濱醫、哈醫

哈憲

033

極秘

昭和13 三二四八九 暗 哈爾濱 十一月四日後發 本 省 四日夜着 祿、頭

有田外務大臣

鶴見總領事



第一九八號（至急、極秘）

本官發滿宛電報

第一九八號

閣下發大臣宛電報第七七四號末段ニ關シ

一、三日龜山政務處長ハ關東軍第四課係官ト共ニ來哈シ當地關係官ト
打合ノ結果在滿蘇聯領事ノ引揚ヲ導カサル程度ニ於テ差當リ左記
ノ報復手段ヲ當地及滿洲里ノ蘇聯領事館ニ加フコトトナリ當地ニ
於テハ三日夜半ヨリ實施セリ

電信寫

シハ
領事館
遇ハ
口頭
題

イ、水道電話ノ遮斷

ロ、電信ハ滿洲里ノミ遮斷シ哈爾濱ハ本國トノ通信ヲ繼續セシム
ル爲其ノ儘放任ス

ハ、電氣ノ供給ヲ制限シ從來ノ四〇「キロ」ノ電壓ヲ五「キロ」

ニ減シ無電機ノ使用ヲ不可能ナラシム

ニ、蘇聯領事館ヲ封鎖シ館員外出者ハ身體ニ危害ヲ加ヘルコトナ

ク一時警察ニ拘留又外部ヨリノ來訪者ハ之ヲ遮斷シ燃料及食料

品ノ供給ヲ杜絶セシム但シ「ゴルブツオフ」總領事代理ノミハ

其ノ外出ヲ放任スルモ尾行ヲ附シ且自動車ノ遮斷又ハ「タクシ

」ノ使用ヲ不可能ナラシム又外國領事ノ來訪ニ對シテハ當分放

任スルモ蘇聯領事館前へ（不明）ナル溝ヲ掘リ自動車ノ通行ヲ

極秘

禁ス

ホ、今回ノ報復手段ハ領事館ニノミ限リ蘇聯籍人ニ對シテハ行ハ
ス

ニ右報復手段實行ノ趣ハ三日午後七時下村特派員ヨリ「ゴルブツオ
フ」ニ通知シ滿側今回ノ措置ハ蘇側ノ反省ヲ促ス外他意ナク蘇側
ニ於テ誠意アル反省ヲ爲サハ直ニ終止スル旨附言セル趣ナリ

三、尙本件今後ノ成行ニ付特派員公署側ノ見透ニ依レハ蘇側ハ恐ラク
反省スルコトナク更ニ大ナル壓迫ヲ在蘇滿側領事館ニ加ヘ双方一
時睨ミ合ノ状態ヲ持續スヘク結局武市及「チタ」滿側國領事ノ引

揚トナルノ外ナカルヘシトノコトナリ

大臣、滿洲里ヘ轉電セリ

電信寫

035

極秘

昭和13 三二六〇二 暗

滿洲里 十一月五日 發
本省 五日夜着

有田外務大臣

松田領事代理

第四四號（極秘）

本官發滿宛電報

第六四號

發電合第三〇一號ニ關シ

特務機關長ヨリ極秘他言セサル約束ニテ左ノ通り内話アリタリ

四日午後十時頃ヨリ報復ヲ開始セリ即チ蘇聯領事館宛電報、郵便物

不配達（發信ハ暫ク繼續セシム）、電話切斷、電燈ノ燭光低下、水

ノ配給停止、領事代理ヲ除キ他ノ館員ハ外出次第一晝夜位ノ拘留ヲ

電信寫

領事館
待受

爲シテ釋放スルコト。外部トノ交通遮斷（「モ」鐵關係者ハ除外）

自動車使用妨害、牛乳。石炭ノ配達停止等ナリ尙小官ノ諜知セル所

ニ依レハ四日飛行機ニテ當地ヘ出張シタル治安部員ハ「モ」鐵關係

ヲ承知セサリシ趣ニテ「モ」鐵ニ關聯スル微妙ナル問題ハ如何措置

スヘキカ研究中ノ如ク不取敢蘇聯邦領事館ニ對シテ益々壓迫ヲ加ヘ

在留蘇聯籍人ニハ之ヲ及ホササル方針ナル（趣）ナリ

御參考迄（了）

秘

電信寫

昭和13

三二四七一

暗

新京

十一月四日發
本省 四日夜着

歐、亞

有山外務大臣

樺田大使

第七八〇號

往軍第七七八號ニ歸シ

三日迄ノ埃地ヨリノ報告要領左ノ通り

「チタ」

録
通
下
題

備人ハ三日ニ至ルモ歸來セス飲料水及新ハ依然配給セラレス州副
議長ハ會見ヲ拒否シ居ルニ依リ文書ヲ以テ全員引揚ノ場合便宜供
與ヲ爲スヤニ付三日中ニ向省方要求セリ

ニ武市

電信ハ一日外務局發軍（往軍第七六九號ノ情報）一通ノ外ハ全部
配達セラレス飲料水及新ハ配給ヲ約セルモ實行セラレス二十九日
ニ至ルモ外交代表ハ埃地ニテ結婚（蘇聯籍）ハ遂テ歐籍離脱方申請
中ナリシ處二日氏籍著ヨリ手續ノ爲出頭ヲ命セラレ出向キタル儘
歸來セス

蘇、暗、情、實、滿洲里へ歸軍セリ

037

電信寫

秘

江領子鉸
待遇

三二四五六

新泉 十一月四日 休養
本省 四月廿九

有山外務大臣

和山大使



任車第七七四號二部シ

三日夕ニ主ルモ現地ヨリ歸佛慈度ノ取寄ヲ思ハシムル事ヲ得ナキニ由

り、海軍二方、テハ三日、夜半ヨリ、昭南、賓館、島、館ニ至シ、華、協、同、軍、官、諸、シ、進、出、

星領事館ニ到シテモ必按ノ手配ヲ爲スト共ニ歐進ヲシテ

ヲ日 拾、支外ニ費、衣方取訂ヘル趣ナリ

魚、
昭
微、
海
生
へ
年
第
七
月

咄！ソ聯の不法

満洲國領事館の安全保障を拒み

本國との連絡阻止

[illegible]

國民新聞

昭和拾年十二月拾日

039

038

電信寫

秘

307 待 領 3 號

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七

新報
十一月
十四日
禮拜五

利山外症大

和山大使

任中第七四班二科シ

三日夕ニ主ルモ現地ヨリ船僦惠農ノ取寄ヲ思ハシムル義情ナキニ
リ船僦ニ於テハ三日仅半ヨリ船船賃僦事能ニ勤シ勤勞ヲ實感シ
皇領事能ニ勤シテモ坐安ノ于此ヲ爲スト共ニ歐遊ラシムルノ
ヲ日船支外ニ費衣方取計ヘル趣ナリ

海生

咄！ソ聯の不法

満洲國領事館の安全保障を拒み

本國との連絡阻止

[illegible]

國民新聞

紹興和拾年三月拾日

039

1038



歐亞局

公機密第一〇〇號

昭和十四年五月十九日

第一〇〇號

昭和十四年五月廿四日接受

別紙添付

040

在滿洲里

領事代理 松田正綱

在

外務大臣 有田八郎 殿

件名

海拉爾及ビ滿洲里方面ニ於ケル「ソ」聯人ノ旅行禁止ニ關シ「ソ」側申出ノ件

本件ニ關スル五月十八日附在滿大使宛

拙信機密第六九號寫送付ス

A 2.2.0. MA/R/ K 2.10.

東亞局



寫

機密第六九號

昭和十四年五月十八日

在滿洲里
領事代里 松田正綱

在滿洲國
特命全權大使 植田謙吉 殿

海拉爾及ビ滿洲里方面ニ於ケル「ソ」聯人ノ旅行禁止ニ關シ「ソ」側申出ノ件

本件ニ關シ今般當地外務局辦事處長ヨリ本月十六日附同局長官宛
秘第一四六號公信寫送付越タルニ付右御參考迄別添送附ス

本信寫送附先 外務大臣 報三

哈爾賓 海拉爾

在滿洲里日本領事館

041

秘第一四六號

庚德六年五月十六日

駐滿洲里外務局辦事處長 審 榮 錦

外務局長官 蔡 運 升 殿

滿洲里及滿洲里方面ニ於ケルソ聯人ノ
旅行禁止ニ關シソ聯申出ノ件
五月十五日ソ聯領事代理フエツツ秘書官ググーノヲ帶同當
處員ヲ來訪シ省題ノ件ニ關スルソ聯累次ノ申入ニモ不拘舊態依然
タルハ甚タ諒解ニ苦シム所ナリト頻リニ苦情ヲ並ヘタルヲ以テ當
方ハソ聯人ノ旅行ハ既ニ自由ナル筈ナルカ今暫ク靜觀有度ト答ヘ

駐滿洲里外交部辦事處

外務局

北特№148

042

秘

滿

同時ニ滿洲ノ此種寛大ナル態度ニ反シソ聯ノ我赤塔領事館長ニ對
スル旅行禁止ノ如キハ實ニ言語同斷ナルニ付近キ將來ニ於テソ聯
カ其態度ヲ改メサルニ於テハ再禁止ノ憂目ヲ見ルヤモ不知トソ聯
ノ注意ヲ喚起シ置キタル趣ナリ
尙ソ聯人ノ旅行禁止ハ關係機關ト協議ノ結果一旦解除スル事ニ決
定シタルニ付爲念申添迄

右報告ス

本信寫送付先 哈特 赤領 武領 滿蒙廳

滿日特 滿日領

駐滿洲里外交部辦事處

外務局

北特№148

△043